

# 今後の目指すべき将来像「豊かな瀬戸内海」

豊かさの要素	自然・人文的景観の継承 <b>美しい海</b> きれいな海の維持	健全な物質循環 — 高い生物多様性 <b>多様な生物が生息できる海</b> 高い生物生産性	海の道の活用 <b>賑わいのある海</b> 豊かさの実感
	地域によって水質は一定の改善 汚濁物質のストックは存在 埋立や暮らしの変化による景観変化 海洋ゴミの問題	藻場・干潟の減少、赤潮・貧酸素域、底質の変化、漁業生産の低迷、局所的な富栄養海域と貧栄養海域の顕在化、温暖化の影響、レジームシフト	島嶼部の過疎化・高齢化、人と自然との関わり方の希薄化、海岸線形状の変化、自然観光資源としてのポテンシャル
現状認識	◆ 水質の保全 ◆ 景観悪化の要因の除去 ◆ 自然景観の保全・継承・創造 ◆ 島嶼美や生業の風景等の継承	◆ 生物が死なない環境にすること（底質、貧酸素、赤潮） ◆ 多様でバランスのとれた生物生産（場の多様性、栄養塩管理） ◆ 産業活動等の環境影響回避	◆ 持続可能な利用と保護の両立 ◆ 人と自然とのふれあいの場へのアクセスを改善 ◆ 多種多様な生業の共存共栄 ◆ 住みよさと賑わいの両立
	◆ 汚濁負荷のフローの確保とストック削減 ◆ ゴミの発生抑制	◆ 栄養塩動態の解明 ◆ 海流・潮流における物質輸送の把握 ◆ 砂供給のフローの確保 ◆ 地球温暖化への適応	◆ 人と自然とのふれあいの機会の増進
個別目標	湾・灘毎の特性の把握		
	里海づくりの手法		
	順応的管理のプロセス		
考慮すべき観点			

「庭」  
比類なき景勝地、憩いの空間

「畑」  
貴重な漁業資源の宝庫

「道」  
ヒトとモノが行き交う海の道

瀬戸内海の多面的価値・機能が維持され最大限に発揮 ⇒ 「豊かな瀬戸内海」